仮面ライダーディケイドと遊ぼう!〜キャラ崩壊しちゃおうぜ!〜

仮面ライダーが大好きすぎる人その名はsinne

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
仮面ライダーディケイドと遊ぼう！～キャラ崩壊しちゃおうぜ！～

【Ｎコード】
Ｎ３５１９Ｙ

【作者名】
仮面ライダーが大好きすぎる人その名はｓｉｎｎｅ

【あらすじ】
士達の目の前に、少女が居た。
その少女は鈴海良々と名乗った。
なんだかギャグで進んでいく感じの小説。時々シリアスもあるらしい。
＊小説オリジナルキャラを作ってます。あとキャラ崩壊ありまくります。

一話「唐突すぎる始まり」（前書き）

何新小説始めてるんだお前ですね。

ララ「やっほ～！この小説では何故か漢字表記になって苗字変わった鈴音ララで～す」
ルル「同じく・・・鈴音ルル・・・」
ララ「でも、此処に私達来て良いのかな？」
ルル「混乱するかも・・・？」
ララ「ううん、士君達って、何処に来るのかな～？って」
ルル「あとがきじゃない？」
ララ「だね、ま、とにかく、始まり始まり～」
ルル「あ、ちなみにこの小説は色々おかしいので、原作ファンの人は読むのを少し躊躇ったほうが良いです」
ララ「まあ、投稿者は電王以前の仮面ライダーは知らないからね・・・」

一話「唐突すぎる始まり」

此処に、士達が居る。
あと、知らない少女も。

良々「はじめまして！私の名前は鈴海良々（すずみらら）！」

士「ああ、だからなんだ」

いきなり話し出した黒髪の少女に青年、門矢士は言う。

良々「てわけで、皆で何か色々話しましょう！」

ユウスケ「話が急すぎるし、初めて会う人達にそれはないだろ・・・」

続けて小野寺ユウスケが言う。

良々「ぶ～、折角ＤＣＤの人も、オリジナルの人も呼んで、色々しましょーってしようとしたのに～」

夏海「あの・・・いきなり意味が分からないんですが・・・」

遂に光夏海も訊いた。

良々「あ～はいはい。えっと、今から、本編が真面目過ぎて色々ギャグに走らなかった（一部除く）のがちょっと悔しかったのと他にやっぱオリジナルとＤＣＤの人を絡ませたいな～とか投稿者の妄想した事がこれです！！」

夏海「せ・・・説明ありがとうございます・・・」

夏海はとりあえず礼を言う。

カズマ「そういう事で、俺が呼ばれたのか・・・」

其処には、剣立カズマが立っていた（剣立なだけに）。

ユウスケ「カズマ！」

ユウスケがカズマの元へ行く。

士「成る程な、全員呼ぶって事か」

士が言った。

良々「って言う事らしいよ～。まあ、何もしないんじゃ楽しくないからさって」

良々はそう言うと、何かを取り出して、投げた。

士「お前、何を投げた？」

士は良々に訊く。

良々「え～と、なんか、投稿者に渡されて、投げてって。何が起こるかよく分からないけど」

士「は？」ユウスケ「え？」夏海「ちょっと！」カズマ「な！？」

四人がそう言った瞬間。
良々の投げたものが光り、周りから化け物が現れた。
士「何やってんだお前！！！！」
良々「分からないよ～！！！だって、投稿者に渡されたし」
士「投稿者！！！！投稿者を出せ！！！！！！」
夏海「な、何が何だか分からないです～！！！！」
ユウスケ「とりあえず戦うしかないだろ！」
？？？？「・・・その必要は無い・・・」
その瞬間。
何かが士達の前を横切り、化け物は倒れた。
？？？「全く、投稿者も何やってんだか、良々に何かあったらどうするんだ・・・」
良々「縷々（るる）！」
士「誰だ？」
縷々「鈴海縷々（すずみるる）。良々の双子の弟。で、あんたらが、投稿者の呼んだ奴等か」

士「ああ、そうらしいな。まあ、大体分かった」

夏海・ユウスケ・カズマ「「「大体分からねえ（りません）！！！！」」」

士に三人が突っ込む。

良々「でも、変だね？全員呼んだつもりだけど、カズマ君しか居ないみたいだね」

カズマ「それ初対面の年上に対して失礼だろ・・・」

ユウスケは思った、この流れじゃ、士も俺も、君付けだろうな・・・と。

良々「ま、此処で話しててもしょうがないし、喫茶店に行こうか」

夏海「喫茶店・・・ですか？」

縷々「うん・・・僕と・・・良々が・・・普段居る・・・場所・・・」

士「ま、とりあえず、行ってみるか」

カズマ（一話からこんなで・・・大丈夫なのか・・・？投稿者・・・）

一話「唐突すぎる始まり」（後書き）

士「俺達があとがき担当か」
夏海「まあ、良いじゃないですか」
ユウスケ「だな」
カズマ「何故、最初から俺が居るんだ？普通に考えたら、順番として、ワタル、若しくは別の人だろ」
ララ「それは投稿者がブレイド好きだからだよ～」
ユウスケ「そうなのか～って何で良々ちゃんが此処に！？」
士「っていうか、ブレイドは投稿者見てないんじゃないのか？」
ララ「ん？まあ、ファンではあるって」
夏海（そんなんで良いのでしょうか・・・？）
カズマ「まあ、いいか。じゃ、次回も宜しくな」
ララ「まあ、全員大体性格分からないから、うろ覚え若しくは想像だけどね」
士「俺は大体覚えてるらしいがな」
夏海「私もらしいです」
ララ「投稿者曰く、士君と夏海ちゃんは性格分かりやすいらしいよ」
ユウスケ「俺とカズマは・・・」

龍と狼（龍はヤンデレらしいけどそんなにヤンデレしてたっけ？）（前書き）

ララ「なんか、サブタイが微妙にネタバレだね・・・」
ルル「龍でヤンデレって・・・あいつしかいないだろ」
ララ「ちなみに、リイマジキャラは大体投稿者の好きなキャラ順に出てきます」
ルル「でも・・・リイマジキャラはハッキリ言って、カズマとかユウスケとかタクミぐらいしか性格は大体覚えてないらしい」
ララ「まあ、ユウスケ君とカズマ君は投稿者の好きな俳優さんがやってるからね」
ララ・ルル以外全員「「「「それマジ（です）か！？」」」」
ララ「それ、驚くところ？」

龍と狼（龍はヤンデレらしいけどそんなにヤンデレしてたっけ？）

カズマ「題名については突っ込まないであげようか・・・」

ユウスケ「それ・・・前書きとかあとがきで言う事だよな？」

良々「黙れＢＬ要員」↑物凄い笑顔

士（あいつ、物凄い笑顔で物凄い事言いやがった・・・）

カズマ・ユウスケ「「誰がＢＬ要員だ！！！」」

縷々「良々・・・それは俳優の・・・」

良々「あ・・・・間違えた☆」

間違えたで済む問題なのだろうか・・・・。

良々以外の全員が考えた事であった。

???「あれ？さっきまで取材用の写真取ってたはずなんだけど・・・」

???「学校から、帰ってる途中だった気が・・・」

士「シンジに、タクミじゃないか」

シンジ「あれ？士。此処は一体何処だ？」

良々「ふっふっふ～。此処ｈ」「今すぐ帰れ此処はお前たちが居て

良い場所じゃない特にタクミ」←士

縷々「士・・・。それは良々に対しての言葉か、それとも、投稿者に対しての言葉か、投稿者に対してなら投稿者を死ぬまで弄くり回しても構わない」

良々「縷々！それ投稿者死んじゃう！」

カズマ・ユウスケ「「本当に、何したいんだろうな・・・この小説」」

縷々「ちなみに、投稿者曰く、この小説はギャグ９割シリアス１割の小説だそうだ」

良々「シリアス一応入ってるんだ！！」

ユウスケ（どうやってこんなギャグだらけ状態の小説をシリアスに連れ込むんだ？）

良々「あ、ユウスケ君、ちなみに其処は投稿者のきまぐれらしいから、シリアス入るかはまだ検討中だって。もしかしたら後で普通に連載するかもしれない可能性があるから」

縷々「良々が・・・遂に人の心を読む能力を手に入れた・・・」

ユウスケ「いやいやいやいや・・・。遂にって何だよ！良々ちゃんそんなに能力持ってるのかよ！あと人の心読むな！！！」

カズマ「っていうか・・・未だにタクミが第一声しか発してないんだけど・・・」

タクミ「ううううう・・・・」←いじけて体育座りしている

良々「あれ？そういえば、前回言ってた私の喫茶店に行くっていう話は？」

良々・タクミ・シンジ以外全員「「「「遠い宇宙のかなたへ消えた・・・かな？」」」」

タクミ「っていうか、さっきやっと話し振ってもらえたのにまた無視！？」

縷々「・・・よし、今から天の道を行く人を連れてｋ「お前は少し自重しろ！！！」←カズマ

良々「じゃあ、とりあえず、喫茶店行こう？」

と言う事で。喫茶店に来る事になった一行。

～～～

か！」

ユウスケ「確かに・・・そういう点では、まだタクミの方がましだったのか・・・」

タクミ「夏海さんとりあえずすみません・・・ｏｒｔ」

良々「じゃ、料理を作るにあたって皆に頼みたい事があるんだけど・・・」

カズマ「何だ？」

良々「縷々が、キッチンに入らないように見張ってて。入ってくるようだったら、ちょっと変身して戦っても良いから」

副音声【てめえら、縷々を絶対にキッチンに入らせるなよ。入ったらこの世の終わりだ】

何気に副音声が怖かった気がするが、皆はとりあえず良々の言うとおり縷々からキッチンを守っていた。

良々「あ、ちなみに、夏海ちゃんは戦わなくて良いよ。てか戦わないで」

夏海「・・・・あ、はい・・・」

それが、大きい戦いを起こすとも分からず。

縷々「僕だって・・・良々の手伝いくらいできる・・・・おとなしく、そこをどけえええええ！！！！」

タクミ「ぐわあああああああ

まあ、実際縷々は人間じゃないらしいのだが・・・其処はまだ言わないでおこう。

カズマ「クソッ、あいつを止めるには変身して戦うしかないのか！」

ユウスケ「だな・・・」

士「あいつも、ある意味破壊者だな・・・」

タクミ「うん・・・・」

タクミが誰の言葉にうんと言ったのかはさておき、全員変身する事になった。

一方、良々と夏海はと言うと。

良々「♪～～♪♪♪～」

夏海（よく近くであんな事が起こってるのに動じないのでしょうかね・・・？）

良々「ん～？それは慣れだよ～。夏海ちゃん」

またもや人の心を読んでいる良々を横に、夏海は呆れるしかなかった。

続く

龍と狼（龍はヤンデレらしいけどそんなにヤンデレしてたっけ？）（後書き）

士「ちょっとまて！！！」
ユウスケ「何だ士？」
士「あいつ人間か！？」
タクミ「あと、僕の立場が・・・・」
夏海「途中まで空気と化していた私よりはマシですよ・・・・きっと・・・・」
ララ「あ、ちなみに次回から私とルルは片仮名表記になります」
士「はあ！？」
ルル「投稿者が漢字表記は面倒だ・・・・って・・・・」
夏海「何でいきなりそうなるんですか！」
士「そうだ！そうしたら名前が漢字な奴が減るだろ！」
ララ「士君怒る所其処！？」
ルル「次回は剣の恐ろしさを知る・・・・・」
カズマ「？」

三話「前回話数を書き忘れたけど無視する。ついでにルル暴走中誰か止めてください」

士「日に日に題名が長くなっていく気がするが・・・」
ユウスケ「いや、本当に長くなってるから」
夏海「それにしても・・・気になるんですが・・・前回副音声で聴こえたララちゃんの声って何ですか・・・？」
ルル「それは・・・いつか言う・・・」
カズマ「今すぐは言わないんだ・・・」
ララ「ま、とりあえずあらすじっぽいことしよう！」
ララ以外全員「「「「今更！？！？！？」」」」

タクミ「あれ・・・？僕とシンジの言葉は・・・？」
シンジ「・・・・」

ララ「前回は、私達の本拠地の喫茶店に来て、私が料理する事になって、ルルをキッチンに入れない為、皆が戦ってくれてるよ☆」
タクミ「っていうか・・・キッチンに入れない為戦うって・・・」
ルル「其処に・・・突っ込んだら・・・負け・・・」
カズマ・ユウスケ「「お前が言うな！！」」
士「意外と普通にしたな」
夏海「っていうか・・・まだ三話目にしてこの意味不明な話って・・・どうするんですか・・・？」
ララ「とりあえずシリアスは入れないようにする！」

三話「前回話数を書き忘れたけど無視する。ついでにルル暴走中誰か止めてくだ

ルル「僕をキッチンに入れろ～！！！！」

タクミ「ど、どうするの！？これって！」

士「俺に訊かれてもわからねえよ！！！」

ユウスケ「二人ともとりあえず戦って！」

現在、ルルがララが調理中のキッチンに入ろうとして暴れている。
その為、此処に居るライダー達（夏海除く）は戦っています。

その時、夏海の声が聴こえた。

夏海「皆さ～ん！！！料理作り終わりましたよ～！！」

ライダー達「やったあああああああああああああああああああああああああああ！！！！」

皆が喜んでいたのは言うまでも無い。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

カズマ「で、さっきのは一体なんだったんだ・・・」

タクミ「っていうか・・・よくララちゃん一人で出来てたね・・・」

士「俺達がこんなに苦戦するのにな・・・」

ララ「其処は気合で♪」

ライダー達「なら最初からやっとけえええええええええええええええ！！！！！！！！」

ララ「え～、だって今日はお客さん居るし・・・・」

ライダー達「そのお客さんに何させとんじゃあああああああああ！！！！！」

ルル「ララを・・・いじめるな・・・・」

ルルの静かな怒りに全員納まる。

ライダー達「す・・・・すみませんでした・・・・・」

ララ「じゃ、早速。で、本編無視して、この話を色々してこう！！なので、敵とか味方とか関係なく、話を進めて行こうじゃないか！！で、この小説は出来ました。でも・・・・」

ルル「ララ、それ以上はあとがきで」

ララ「あ、ごめん♪」

ララ・ルル以外全員（なんか・・・こっちが前面突っ込みになってるんだけど・・・）

とりあえず、全員疲れたため、寝る事になった。

部屋割りは、こう。

１０１
士・シンジ
１０２
ユウスケ・カズマ
１０３
タクミ・ルル
１０４
ララ・夏海

とりあえず、タクミにご愁傷様と言っておこう。

ユウスケ「・・・・タクミ・・・頑張れよ・・・」

タクミ「え!?ちょっと待ってください!!!」

カズマ「・・・・・・」←タクミに何か良いたいが何もいえない。

タクミ「カズマさん・・・そんな哀れむような目で見ないで下さい・・・」

ララ「ま、まあ・・・。これもルルが勝手にくじで決めたしね・・・」

ルル「うん。男女混合でやった」

ルルの爆弾的発言に全員。

ライダー達「お前男女同じ部屋になったらどうするつもりだあああああああ

おおおお

カズマは息切れしている。
其処に、ルルが黒い飲み物かどうか分からない物を持ってきた。

カズマ「な・・・なんだこれ・・・・」

ルル「飲み物・・・」

ララ「あ、あああああ！！カズマ君！お詫びと言ってもなんだけど、はい！お茶！」

ルルを静止するかのようにやって来て、ララがお茶をカズマに渡す。

ユウスケ（あれって・・・飲み物なのか？）

タクミ（疲れましたね・・・）

士（だな・・・・）

続く

三話「前回話数を書き忘れたけど無視する。ついでにルル暴走中誰か止めてくだ

カズマ「・・・・・・」←部屋の片隅で体育すわりをして落ち込んでいる。
ユウスケ「な？カズマ・・・少しは我慢しろ。な？」
カズマ「な？じゃねえええええええええええ！！！！」

限りなくカズマが絶叫キャラになってしまっている・・・。
元祖絶叫キャラ（ディケイドでの）のショウイチさんも居るのに・・・。
っていうか・・・今回アスム君とワタル君が出るはずでしたｗｗｗ
ララ達をカタカナ表記にしました。面倒だったので。
前回のララの副音声は話を進めれば分かります。
う～ん。シリアス専用の話作ろう。うん。

四話「カズマとタクミが遂に壊れたようです」（前書き）

士「前回のディケ崩壊は・・・」
ユウスケ「なんだよその略し方！」
カズマ「俺の扱いどうにかしてください・・・」←女装させられた
タクミ「僕、絶対死にますよ・・・」←ルルと同室
シンジ「俺なんか・・・前回台詞が・・・」←前回台詞殆ど無かった
ルル「連載が始まったもう一つの小説とも関連っていうか、完全に
それをギャグにすっころばせた奴的になるらしい」
夏海「なんか・・・心配です・・・」

ユウスケ「てか、まずサブタイトルに突っ込みいれような・・・」

四話「カズマとタクミが遂に壊れたようです」

ララ「おはよう～♪」

ララは元気よく挨拶したが・・・。

タクミ「おはようございます・・・・・」

カズマ「・・・・・・・・・・」

シンジ「前回の恨み・・・・」

約三名が、元気無いと言うか、なんだか、疲れ果てていると言うか・・・。

そんな状態になっていた。

ルル「・・・・？」←少なくともタクミの疲労の原因

ララ「む～」←カズマの元気が無い原因

士・ユウスケ・夏海「・・・・・？」←前回台詞があった人達

ララ「まあ、ルル、カズマ君。はい、服昨日徹夜で作ったから」

そう言って、ララはルルとカズマに服を渡す。

カズマ「・・・・徹夜！？！？！？！？」

ルル「ララ、そんな無茶しなくて良かったのに！僕なら、僕ならど

んな格好でも良かったのに！」

ユウスケ「とりあえずルルは自重しろ！色々！前回から！！！」

ルルにユウスケが突っ込む。

ララ「まあ、とりあえず、皆、何するの？」

ライダー達「お前が呼んだんだろおおお

ララ「あ、あ、え??どうしたの?皆」

ララ一人だけ、何も分かってないようだが。

シンジ「っていうか、今回は、俺が自由にして良いか?」

シンジは、カメラを持ちながら言う。

ララ「ん?。良いけど」

シンジ「やたあああああああ

ララの突っ込みにルルが驚いてユウスケが突っ込む。
完全にユウスケは突っ込みキャラとして位置されてしまったのである。

士「俺達の出番が・・・」

タクミ「どうせ僕なんて・・・！映画版さえも役者さんの色々で居なかったし・・・」

士は落ち込み、タクミは負の街道まっしぐらである。

ララ「まあいいや、はい」

タクミ「？」

ララはタクミに飲み物を渡した。

ララ「これで、全部吐き出しちゃいなＹＯ♪」

タクミ「ふふふふふふ・・・・・はあああああああああはははははっはは！！！！！」

ライダー達「タクミが狂った！！！？？？」

シンジ「おお！！」

カズマ「何呑気に写真撮ってるんだよ！」

ララの渡した飲み物により暴走するタクミ。
それに驚く士達だが・・・シンジは呑気に写真を撮っている。

ルル「ララ・・・。何渡したの・・・・？」

ララ「ん？。ああ、お酒・・・かなあ？」

ルル「未成年が何で持ってるそして何故に渡してる！？！？」

遂にルルまでも突っ込みキャラの立ち位置に行ってしまい、ボケと突込みが混合してる状態だ。

暴走状態の人も若干居る為、所謂カオスという状態だ。

続く

ユウスケ「いやいやいや、何で此処で切るの！？！？」

四話「カズマとタクミが遂に壊れたようです」（後書き）

ユウスケ「まず言いたい」
ララ「何？」
ユウスケ「疲れた・・・・。突っ込みやめたい・・・」
カズマ「ユウスケ。頑張るんだ。安定した突っ込みは、今お前しか居ないんだからな」
ルル「うん・・・頑張れ・・・」
ユウスケ「お前等俺をどう思ってるんだ！」
ララ「あ、そうそう。前回私１３歳とか言ったけど訂正。まあ、一応１３歳？っていう事になった」
士「大体分かった。それは年齢表記を明らかにしないって事だろ？」
ララ「うん、何か、もう一つの小説の方で明かすからって、こっちでは一応１３歳って言う扱いになるけど・・・皆の見方が１３歳って事で」
ユウスケ「成る程な」

ルン「本編でまだまだ出番は先だけど、こんにちわ」
ロン「俺は金銅（きんどう）ロン。こっちは姉のルン」
ルン「で、何で私たちが来たかというと・・・」
ロン「知らん」
ルン「はあ？知らないで来たの！？。ロン、ちょっと馬鹿じゃないの！？」
ロン「ま、次回は、色々な人が暴走するってさ」
ルン「ちょっと待って！」

五話「やっと来ますよあの人達」（前書き）

ユウスケ「サブタイトル誰のせいだあああああああ

五話「やっと来ますよあの人達」

タクミ「ふふふふふふ・・・・・フフフフフ♪」

カズマ「コイツ、完全にキャラが・・・」

カズマはタクミの現状に困っている。

ララ「はあ・・・・なんでだろうね」

ユウスケ「お前のせいだろう！！！」

ルル「ララに怒鳴るな！」

ユウスケ「お前も少しは自重しろ！ヤンデレ！」

士「大丈夫だ！ヤンデレはこっちにも居る！」

シンジ「それ僕の事か！？」

ララ「まあ良いからタクミ君止めようよ！私もまあ反省してるし！」

その時、ルルがキャノンを持っている事に気付いた。

士「何してるんだお前！」

ルル「普通に止めて止まらないなら実力行使のみ・・・！」

ララ「それタクミ君死んじゃうってえええええええええええええ

ええええええええええええええええええええええええええええええええ！！！！！！」

ルル「大丈夫これでは（多分）人は死なないいいい

ワタル「もううるさいですねえ・・・・。何ですか？」←パジャマ姿

アスム「あれ？此処は・・・。さっきまで特訓してたんですけど・・・」

ショウイチ「此処は何処だあああああああああああああああああああああああああああああああっ！！！！！」

ソウジ「騒ぐな」

ユウスケ「お！ワタルにアスム、ショウイチさんにソウジさん！」

ルル「ショタ二人と絶叫してる人とＦＦＲの時リアクションが「ん？」だった人」

ワタル「それどういう意味ですか！？」

ショウイチ「ここでも俺は絶叫する人扱いか・・・」

ララ「いやいやこの投稿者でショウイチさん達出てくるの最初だから！」

ソウジ「ＦＦＲのネタか・・・」

ルル「うん・・・。まあでも、ユウスケは喘いでたよね・・・」

ユウスケ「それを言うな！！！」

ララ「でも、ＦＦＲの時、変形が凄いのって、シンジさんだけどね」

ルル「確かに、股裂いてるよね」

シンジ「あれは股を裂いてるんじゃない裂いてるんじゃない。ああ、そうに決まってるそうだよなあ士」

士「ああそうだそうだ（多分）。だから首絞めるのやめてくれ・・・」

ララ「あれ？タクミ君は？」

タクミ「僕なんて映画では完全フェードアウト本編で二話出てきただけでもうそれ以降は何も出番が無かった僕なんかが暴走しちゃってああ何してるんだ僕はでもユウスケとかワタルとかシンジとかカズマとかその他色々が憎いんだけどね」↑片隅でネガティブモードに入っている。

カズマ「ララちゃん、何か謝ることは？」

ララ「ごめんなさい」

シンジ「とりあえず写真に撮っておこう」

ルル（このままだと、なんだか地獄兄弟になりそう・・・）

ララ「大丈夫だよ！だって、そうなら他の人達をこの小説で役薄くして目立たせれば良いじゃん！」

ユウスケ「何その良い案思いついたみたいな言い方！？」

タクミ「良いねそれ！」

ユウスケ「お前のそれに乗るな！！！」

アスム「僕たちをフェードアウトさせないで下さい！」

ワタル「ユウスケ達はともかく僕達は今回出たばっかりなんですよ！」

ソウジ「とりあえず、俺達に出番をくれないか？」

ショウイチ「タクミは俺達のところへ来い。お前は少なくともこっちサイドだ」

ララ「てか、大丈夫だよ？皆。少なくとも夏海ちゃんと士君の出番は減るから」

士・夏海「それ聞いてないぞ（きいてませんよ）！？」

ルル「投稿者はオリジよりリイマジの方が好きだしね・・・」

ララ「ちなみに、響鬼を少し見た感想。所々ミュージカルっぽい」

ルル「カブトを見た感想。加賀美がアホ、馬鹿。天道自重しろ（少しは）」

アスム「何ですかその感想！？」

ソウジ「アイツと俺のオリジを馬鹿にしないでくれ・・・」↑実はタクミの言葉に落ち込みながら言う

続く

五話「やっと来ますよあの人達」（後書き）

ララ「てわけで、ソウジさんショウイチさんアスム君ワタル君の登場の回です」
ソウジ「俺のキャラは安定しないらしい・・・まあ、仕方ない・・・よな・・・」
ショウイチ「俺を呼ぶなあああああああああああああああ！！！！
ソウジお前もうキャラ崩壊してるぞ！」
アスム「ちなみに、僕とワタルは安定するらしいですよ」
ワタル「子供だからですかね？」

六話「鈴海姉弟注意報」（前書き）

カズマ「サブタイトルに不安しか感じないんだが・・・」
ユウスケ「同じく・・・」
ララ「ふぇ？」

六話「鈴海姉弟注意報」

ララ「おはモーニングコール～♪」

ルル「何・・・？その挨拶」

カズマ「ふあ～」

ユウスケ「さあ？」

ショウイチ「で、何で俺達此処に居るんだ？」

ララ「え～、それはもう一つのほうの話！こっちでは、まあ、普通にギャグです！」

ルル「らしい」

ソウジ「ふむ。俺はとりあえずマユの事が心配なんだが・・・」

ララ「だ～いじょ～うぶ！其処は何か保障掛かってるらしいよ☆これは普通にギャグだし！」

タクミ「そうなんですか・・・」

カズマ「じゃ、朝ごはん食べようぜ！」

ユウスケ「何だそのいきなりの話は！」

ララ「うん！じゃ、作るね！あ、ルル。入ってきたらおしおきだよ

☆」

副音声『ルル、キッチンに入ってきたら殺すぞてめえ』

ユウスケ「だからララちゃんの副音声が怖いんだけど・・・」

士「何の話をしてるんだ？」

＊＊＊

さんはしばらく放浪してたし、タクミ君は一人暮らしっぽかったから」

ルル「士はまあ、ほぼ光と同じ理由。ワタルは・・・王族が料理作る所なんて想像できるか」

士「俺だって、一応社員食堂で働いてたぞ・・・」

ララ「だって・・・直接料理してる場面見なかったし」

士「ふがあっ！」←結構精神的に来るようです

タクミ「というか、ソウジさんの理由が・・・」

カズマ「まあ、カブト本家がね、しかもＤＣＤ本編で実家がおでん屋っていう所あったし」

ララ「ふあ～。なんか、つ～ま～ら～な～い～！！！」

ルル（それにしても、ララがもう一つの小説とは大違いな気が・・・）

タクミ「ララちゃん、そんなつまらないって、確かに何も無いけど・・・」

ララ「もうオリジも呼んじゃおうかな～」

ルル「これ以上呼ぶと・・・収集付かなくなる・・・」

ララ「う～ん、あの子に一暴れしてもらおうかな～」

カズマ「あの子？」

ララ「よし、ルル。私を気絶させて！」

ルル「！？！？！？！？！？？！？！？？！？！？！？！

夏海「士君には何も言わないんですか！？」

ユウスケ「っていうか、何でララちゃんいきなり気絶させろって？」

カズマ「というか、あの子って・・・」

ルル（何か嫌な予感が・・・）

？？？「さっきからうるせーよ、てめえら」

アスム「誰ですか！？」

其処に居たのは、ララらしき人物。
でも、しぐさ、口調、などなどが違う。

アクア「俺の名前はアクア。お前らが、ララの言ってた奴か」

ルル（ああ・・・やっぱり・・・）

ルルが頭を抱えた。

アスム「何ですか？」

アクア「俺はララのもう一つの人格。鈴海アクア。で、さっき俺をフルボッコした奴は誰だ？」

タクミ・士・アスム「「「ユウスケ（さん）だ（です）」」」

ユウスケ「おい！」

カズマ「信長さんをいじめないでください！」

タクミ「それ違う！」

アクア「俺にはもうわかってるんだ。タクミ、士、アスム。腹括れ」

タクミ「・・・・・」

士「俺は悪くない」

アスム「すみません・・・」

ルル「じゃ、続く」

ユウスケ「え！？」

六話「鈴海姉弟注意報」（後書き）

ユウスケ「何でのぶらんネタが出たかって？それは今戦国鍋ＴＶのライブＤＶＤ見てるからだよ。って投稿者が」

カズマ「・・・・」↑落ち込んでる

タクミ「カズマさん、元気出してください」

士「・・・・」

最終話「もう、疲れたのさ」（前書き）

カズマ「え？最終話？」
ユウスケ「は？」
士「・・・・」
ララ「ちょっと・・・ね・・・」
アスム「僕達出て間もないですよ！」
ワタル「確かに！」
タクミ「僕なんて・・・」
ショウイチ「俺達の居る意味ってあったのか・・・？」
ソウジ「・・・（実は次からは別の小説で出るのだが・・・。黙ってて良いか）」
ララ「さ、本編へＧＯ！」

最終話「もう、疲れたのさ」

アクア「おらあああああああああああああああああああああああああああああああ！！！！！！！！」

タクミ・士・アスム「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」↑屍になってる

ユウスケ「で、どうする？」

カズマ「あれはほっとくのかよ！」

ルル「で、今回で最後なんだけど」

ユウスケ・カズマ・ワタル「え！？！？！？！？」

ルル「次回からは別の小説でやるんだってさ。何だか、こっちが収拾付かなくなっちゃったから。一回リセットして別の小説にしようってさ」

カズマ「へえ・・・」

ルル「で、その小説についての談話とかするのが最終回の今回なんだけど・・・」

ユウスケ「あいつらどうするんだよ・・・」

ルル「タクミとアスムは助けてって、ララが言ってたからアクアも、あの二人は許すっぽい」

タクミ「はあ・・・はあ・・・」

アスム「ふう・・・ふう・・・」

アクア「この二人はララが許しているから許してやる。あいつは許さないがな」

士「・・・

ララ「年齢的に・・・」

タクミ「ですよね・・・。実際高校生なのは僕と弦太朗さんくらいですし・・・」

ルル「いや、年齢的に学生は乾巧と野上良太郎、あとアスムとワタルもいけるけど」

ララ「確かに、良太郎君は学生だったね、姉の愛理さんが記憶を失くしてやめたって話だったっけ？」

ユウスケ「でもさ、なら、他の人は教師って事にしたら・・・」

ララ・ルル・アクア『「「そうしたら教師の方が多くなる」」』

ユウスケ「確かに・・・」

シンジ「でもさ、ちゃんと仕事してる人って誰かな？」

カズマ「俺とシンジはちゃんとしてるよな。会社員と報道員」

シンジ「カメラマン！」

士「俺だってやってただろう！」←復活

アクア『チッ』←悔しそうに舌打ち

士「舌打ちするな！」

カズマ「でも士って転々としてたよな～」

シンジ「やっぱり世界を色々回ってたしな～」

カズマ「あ、でも一応カメラマンか」

シンジ「あ～確かにね～」

カズマ「ま、でもまったく働いてる様子の無かった夏海ちゃんとユウスケよりは良いか」

ララ「ううん、夏海ちゃんとユウスケ君も一応仕事はしてたよ。てかカズマ君一緒に居たでしょ！」

カズマ「あ・・・。そっか・・・」

ソウジ「俺はクロックアップの世界に居たからな・・・」

ショウイチ「お前は仕方ない」

アクア『ショウイチも一応警官だったしな。あと、アスムは鬼。ワタルは王族。タクミはさっき言ったけど高校生。まあ、リイマジは文句なしって感じだな』

ララ「でも、そうやって見ると、皆一応仕事はしてるんだよね～」

ソウジ「いや、オリジの俺は・・・」

皆の妄想

天道「天の道を行き、総てを司る男」

〜〜〜

アスム「そうですね。ちなみにヒビキ（リイマジ）さんのオリジは鬼が仕事だと思います」

ララ「大体の人は言い終わった？」

翔太郎・フィリップ・映司・弦太朗「俺（僕）達を忘れるなあああああああ

ルル「其処はまあ、色々で」

ララ「じゃあおしま～い」

ライダー達「うぉぉぉい！！！！！」

最終話「もう、疲れたのさ」（後書き）

カズマ「あっさり終わったな・・・」
ユウスケ「ああ」
ソウジ「まあ、これでこの投稿者の書く仮面ライダー小説の最後じゃないしな」
ショウイチ「次に期待するしかないか・・・」
ワタル「かなりごちゃごちゃになってましたしね・・・・」
アスム「まあ、次、ですね・・・」

モモタロス『・・・・』
海東「・・・・・」

ユウスケ「あ、忘れてたあの二人」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3519y/

仮面ライダーディケイドと遊ぼう!〜キャラ崩壊しちゃおうぜ!〜

2011年11月24日19時45分発行